

2040年を見据えた介護DXの推進 介護施設のICT化検討、実践事例を通じて

業種ソリューション営業推進本部

介護ICTソリューション推進部

2024年1月26日



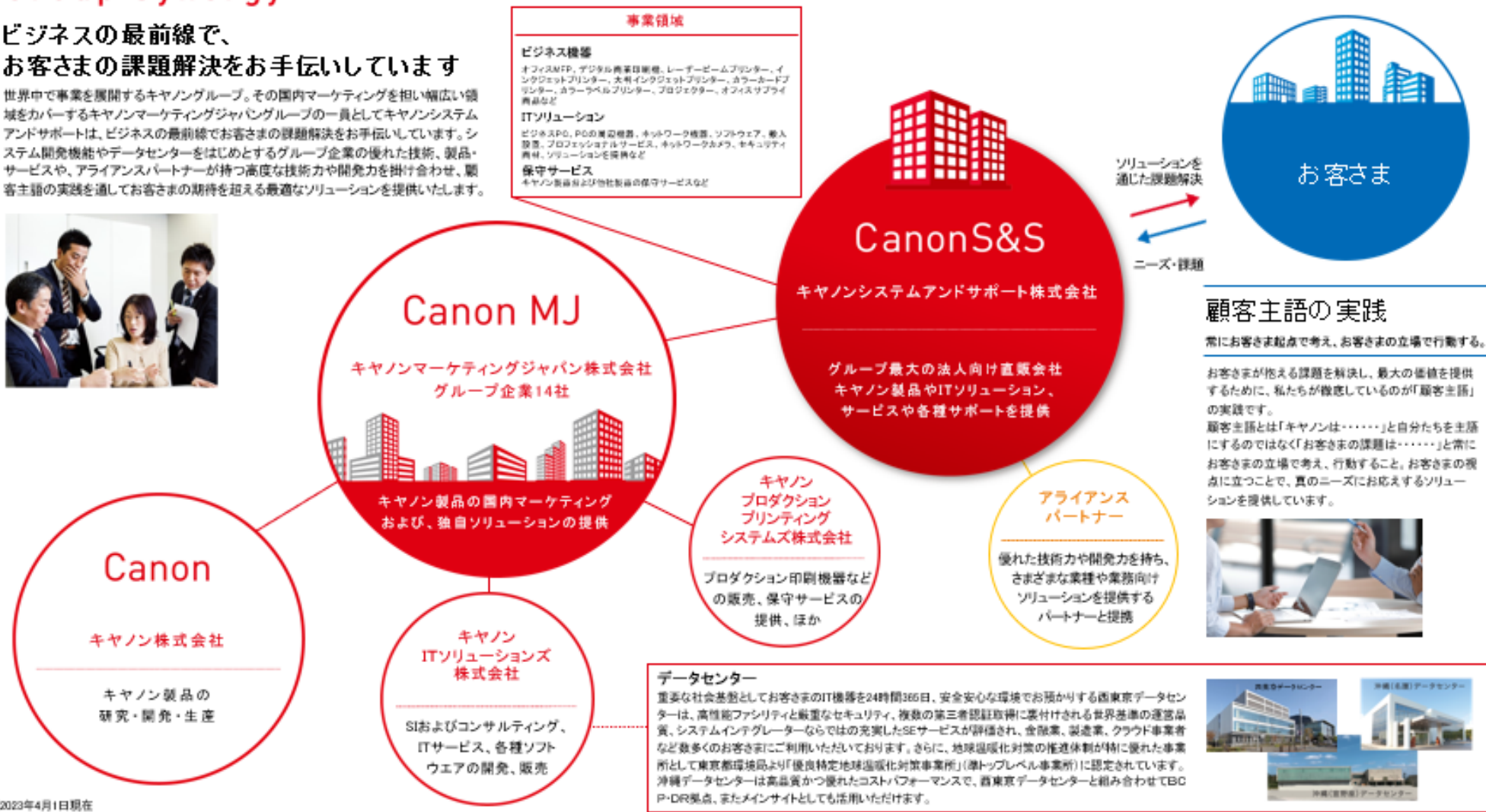
キヤノンシステムアンドサポート株式会社

キヤノンシステムアンドサポート株式会社について

Group Synergy グループシナジー

ビジネスの最前線で、 お客さまの課題解決をお手伝いしています

世界中で事業を展開するキヤノングループ。その国内マーケティングを担い幅広い領域をカバーするキヤノンマーケティングジャパングループの一員としてキヤノンシステムアンドサポートは、ビジネスの最前線でお客さまの課題解決をお手伝いしています。システム開発機能やデータセンターをはじめとするグループ企業の優れた技術、製品・サービスや、アライアンスパートナーが持つ高度な技術力や開発力を掛け合わせ、顧客主語の実践を通してお客さまの期待を超える最適なソリューションを提供いたします。



私たちは、キヤノンが得意とするイメージング技術とITを組み合わせたソリューションを提供しています。

会社概要

Network & TeamWork ネットワークとチームワーク

高品質かつ均質なサービスとサポートを、
日本全国で提供します

キヤノンシステムアンドサポートにはソリューション営業、アプリケーションエキスパート、インフラエンジニア、カスタマーエンジニア、アドミニストレーションという5つの職種があります。お客様の課題に応じてチームを組み、それぞれが持つ知識やスキルを掛け合わせて最適なソリューションを提供しています。

※2023年4月1日現在

158拠点
4,633名

設立 1980年 5月
資本金 4,561百万円
売上高 983億円 (2022年12月期)
従業員数 4,633名 (2023年4月1日現在)

事業内容 キヤノン製品および関連ソリューションや他社製システム機器によるコンサルティングセールス、オフィスのネットワーク構築とサービス・サポート

関東地区

●関東支社(さいたま)

●新浦 水戸 小山 鹿島
●川越 日立 成田 水更津
●熊谷 取手 松戸 上越
●久喜 つくば 新潟 上田
●浦和 高崎 長野
●所沢 太田 長野
●越谷 宇都宮 松本

四国地区

●四国支社(高松)

●徳島 高知
●松山 四国中央

中国地区

●中国支社(広島)

●広島 岡山 周南
●福山 倉敷 米子
●松江 山口
●鳥取 下関

九州地区

●九州支社(福岡)

●福岡 大分 玉名
●北九州 鹿児島 八代
●長崎 宮崎 鹿屋
●久留米 沖縄 都城
●佐賀 熊本 佐世保

近畿地区

●近畿支社(大阪)

●大阪本町 奈良 和歌山
●京都 大阪北 田辺
●福知山 京都(門真市) 神戸
●滋賀 彦根 姫路
●奈良 大坂南 尼崎
●東大阪 堺 明石

北海道地区

●北海道支社(札幌)

●旭川 網走 函館 小樽
●札幌 帯広 苫小牧

東北地区

●東北支社(仙台)

●盛岡 十和田 会津若松
●北上 むつ 福島
●山形 秋田 いわき
●青森 大館 大船渡
●弘前 八戸 八戸 庄内
●八戸 八戸 八戸 八戸

東京地区

●本社(品川)

●東京支社(神田)

●池袋 半蔵門 目黒 豊島
●江東 芝 大崎 中野
●国分寺 赤坂 有明 立川
●八王子 新橋 下丸子 三鷹
●早稲 台東 渋谷
●東京中央 東横 世田谷

神奈川地区

●神奈川支社(横浜)

●川崎 藤沢 平塚 新杉田
●横浜 町田 新横浜

中部地区

●中部支社(名古屋)

●金沢 静岡 名古屋 多治見
●富山 高松 一宮 津
●福井 滋賀 豊田
●岐阜 刈谷 豊橋
●四日市 名古屋東 東岡崎

●本社 ●支社
●事業所/営業所
●サービスセンター

全国158拠点のネットワークで、お客様の課題に最適なソリューションを提供しています

「お客さまの進化を支援すること」 が私たちのミッションです

社会・お客さまの課題を**ICT**と**人**の力で解決する

専門領域の強化・新たな事業の創出

2019年7月に、介護業種向け組織を立ち上げ

全国に専任メンバーを配置し、少子高齢化・労働者不足といった
社会課題解決にICTの力で貢献すること目指しています

本日は、活動の一端をご紹介します

お客さまの声から新しい未来をつくる

「業務負荷軽減に向けたICT化って、何から始めたらいいの？」



「自治体の補助金の事について、教えてもらいたいんだけど…」



「お隣さんが、見守り機器を入れたのだが、うちも同じで大丈夫？」



社会課題の解決と地域社会の貢献にむけ、
キヤノンシステムアンドサポート流のアプローチで
お客さまの課題解決のお手伝いをしています

まず初めにお伺いすること

基本的なことですが、
施設様全体のICT環境の見える化から始めます

Wi-Fi環境 () 居室内含め、施設内の無線LAN環境を整備しICT化の環境を整える	導入済み： 年 月程前	導入エリア	例) 事務所周辺のみ
セキュリティルーター () 構築する無線LAN環境を安全に運用するためのセキュリティ対策装置	導入済み： 年 月程前	追加情報	
見守りシステム1 () 入居者のお部屋に各種センサーを設置し異常や予兆を検知するシステム	導入済み： 年 月程前	追加情報	例)一部の認知症入居者エリア
インカム () インターカムの略称 移動している職員への一斉連絡が可能	導入済み： 年 月程前	追加情報	
ナースコール () 呼び出しボタンを押し職員側に連絡する装置	導入済み： 年 月程前	追加情報	
ビジネスホン () 電話機 外線・内線・ナースコール受信機能付が一般的	導入済み： 年 月程前	追加情報	
介護記録システム () 入所者の状態、サービス実施内容等日々の介護記録を入力するシステム	導入済み： 2022年 3月	追加情報	
スマートフォン ()			



「商品」の機能だけで解決するのではなく
お客さまごとの状況に合わせたソリューションの提供

まずは、現状のICT環境の把握が、とても重要だと考えています

課題の抽出に向けて

次に、施設職員の皆さまが抱えている課題の抽出を、アンケートを活用して行います。

見守り支援(ご入居者のリスク・状態確認)での課題アンケート

項目	コメント
1、ベッドからの離床時に、転倒事故のリスクがある	◎目
2、ベッドからの離床時に転倒事故が発生した場合、原因が分からない	△
3、ナースコール呼び出しでは、ベッドまで行かないと状態が分からない	◎
4、部屋に行かないとどんな状態か分からない	◎看
5、部屋に行かないと	◎看
6、部屋で倒れて	◎
7、お部屋の個室	◎
8、ここ最近の体	人



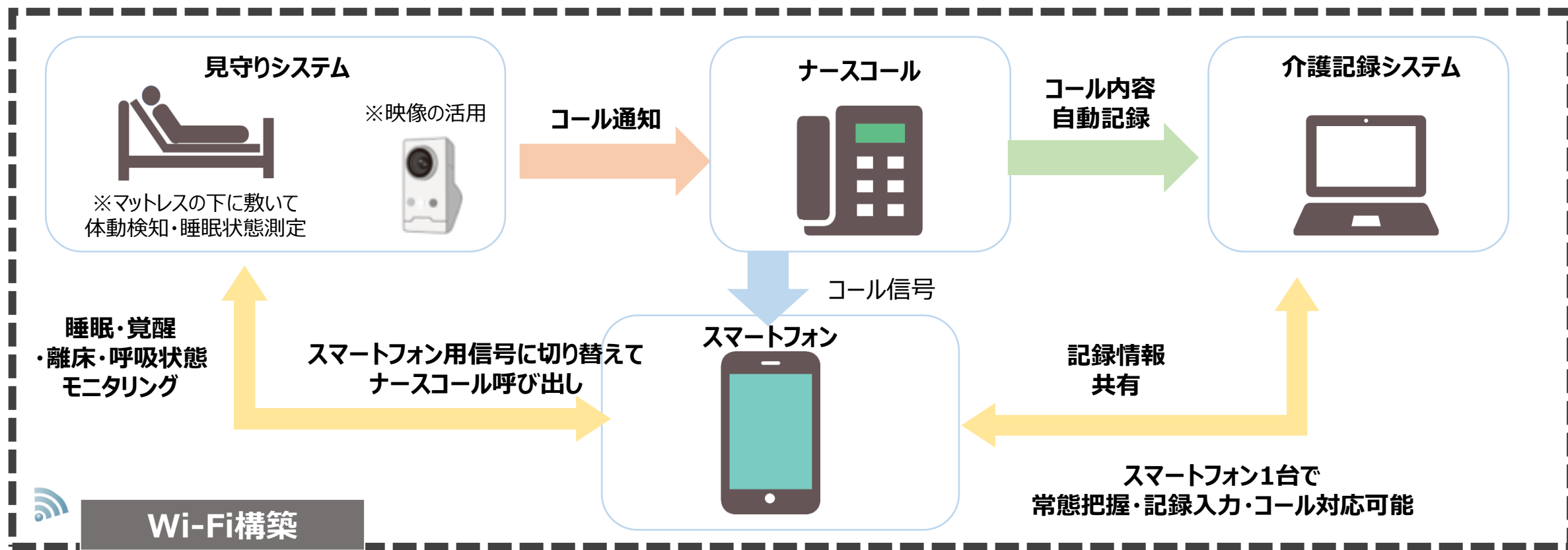
職員の皆様の声が見える化！！

アンケート集計と重要割合・総合ポイント				
見守り支援(ご入居者のリスク・状態確認)での課題アンケート結果に対して				
項目	アンケート内容		(大変)重要割合	総合ポイント
1	ベッドからの離床時、職員が気づいていない	22.2	90.9%	27.0
2	ベッドからの離床時、職員が気づいていない	22.2	77.3%	18.0
3	ナースコール呼び出し時、職員が気づいていない	22.2	90.9%	32.0
4	入眠時間と起床時間、職員が気づいていない	22.2	57.1%	5.0
5	部屋に行かないと職員が気づいていない	22.2	86.4%	25.0
6	部屋で倒れていて職員が気づいていない	22.2	90.9%	33.0



アンケート項目毎にポイント化
リスク項目に対して、職員の皆さまが感じている重要割合を見える化
ICT化の優先順位

提案の方向性



マルチベンダーとして、お客さまの課題解決に向けて
最適な商材を組み合わせた提案

お客さまの課題解決実現に向けた
補助金活用のご支援

既存の資源を無駄にしない
市場のトレンド・変化に合わせた取捨選択

全体最適
将来を見据えたネットワークの構築

事例①：特別養護老人ホーム A

職員間での円滑なコミュニケーションをサポート
〔介護職員の業務負担を軽減〕

×

コール・センサー・バイタル情報を自動で介護ソフトへ
〔介護職員の業務負担を軽減〕

課題 フロアをまたいだ夜間の緊急コール対応で業務負担が高く
ストレスを感じることがあった

介護記録の入力や記録の情報共有に時間を取られて
残業が多く発生していた



職員間でコール・センサー・バイタル情報をシームレスでリアルタイムに共有・記録することで
介護職員の業務負担軽減・働きやすい職場を実現！



事例②：介護老人保健施設 B

体動検知した情報をリアルタイムで確認する
〔見守り業務のルーティンを改善〕

×

映像に映る入居者のプライバシーを配慮する
〔トラブル後の対策〕

課題

夜間巡回を1時間に1回のペースで行っている
複雑なシステムだと、現場での定着に不安がある

入居者やご家族からの映像見守りの同意が得られにくい
事故原因が特定できず、対策案が立てにくい



入居者・ご家族・介護職員の安心安全を実現！



事例③：特別養護老人ホーム C

夜間時の巡回の回数を減少させる
〔介護職員の業務負担を軽減〕

重大事故など不測な事態に備える
〔トラブル後の対策〕



転倒・転落事故が心配で、何度も巡回している
休憩時間が取れないことが、当たり前になっている

事故が起きてしまったとき、原因が分からない
従来型マットセンサーを避けたり、バイタル測定装置を外してしまう



居室全体の見守りシステムに、介護記録・ナースコールを連携させることで

利用者の転倒リスク、職員の業務負担を軽減し、介護サービスの向上を実現！

事例④：特別養護老人ホーム D

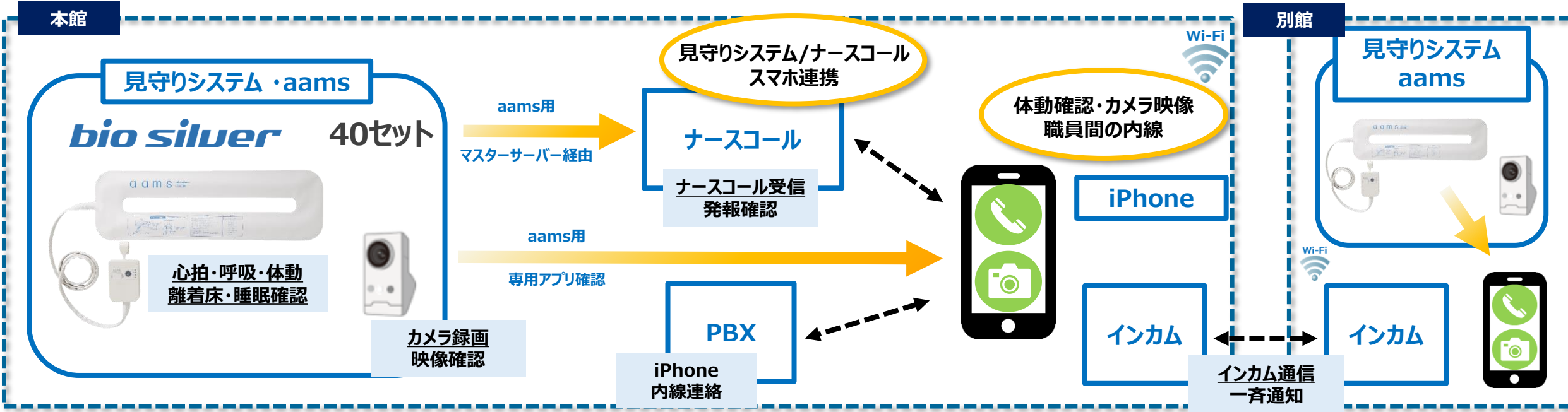
離床時の転倒・転落事故のリスクを軽減させる
〔介護職員の業務負担軽減〕

日々の健康状態や睡眠状況を把握する
〔数値の可視化〕

課題

呼出し後、訪室したタイミングでは既に転倒していた
拡張性のある見守り機器を導入したい

経験値の高いベテランの職員に頼ってしまっている
巡回が睡眠妨害に繋がってしまうことがある



職員間のコミュニケーションが活発となり、モチベーションの高い職員育成を実現！





ITでお客様の進化を支援。

弊社では、市場の変化や業界トレンドに合わせた多様なソリューションをご用意しています。

経営課題の解決から、日常業務における生産性向上に向けた取り組みまで、幅広い領域においてお客様の理想の実現に向け、的確なコンサルティングと最適なソリューションでさらなる価値創造に努めます。

ご清聴、有難うございました。